

# 竹炭パウダーのダンボールコンポスト基材利用

おだわら環境志民ネットワーク

## 竹炭を燃やさないということ (ささやかな気候変動対策)



グリーンカーボン、ブルーカーボン、Jクレジット 脱炭素の風に乗る

荒廃竹林整備において伐採した竹の処理は大きな課題です。小田原では伐採竹の処理方法として竹炭づくりを行っています。木炭より優れた効果をもつ竹炭は、様々な可能性を秘めたエコ・マテリアルとしてその利活用は期待されています。



荒廃竹林問題とゴミ減量化という地域課題の解決から生まれた地域循環共生

小田原市では家庭から出る生ごみの減量化に取り組んでおり、民間団体である「生(いき)ごみクラブ」がダンボールコンポストの普及活動をしています。管理不十分による悪臭や水分過多、虫の発生等でダンボールコンポストを止めてしまう事例が多いと聞き、竹炭の脱臭効果・調湿効果・防虫作用を試していただきたく、生ごみクラブの皆さんに実証をお願いしました。効果顕著、想定以上の効果をもたらし、現在、ダンボールコンポストのスターターキットとして竹炭粉200g、トラブル対応用として300gを小田原市に購入していただいております。また、竹炭の無数の孔は、微生物のコロニーとなり、生ごみの分解促進効果があるといわれています。

カーボン・ニュートラルからカーボン・マイナスへ

生ごみクラブでは、こうしてできた竹炭粉入り肥料を、ソーラーシェアリングを行っている畑で薄荷やラベンダー等の栽培に活用しております。荒廃竹林で伐採された竹は竹炭となり、燃料として燃やされずにダンボールコンポストの基材として効果を発揮し、後に畑の肥料として土壌改良、根粒菌・菌根菌等の活性効果を発揮します。炭は炭素です。燃やしてしまえばCO<sub>2</sub>となって大気中に放出されますが、燃やさずに土中に施用すれば炭素固定、カーボン・マイナスとなるのです。1グラムの炭で約3~4グラムの二酸化炭素を削減したことになります。

III 竹に関する取り組み



無煙炭化器による竹炭作り



竹炭を粉ひき機でパウダーにして  
ポリ袋詰め

ダンボールコンポスト推進ポスター (小田原市広報)

おだわら環境志民ネットワーク

〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪300 小田原市役所 環境政策課内  
0465-33-1472 ka-kansei@city.odawara.kanagawa.jp odawara-env.net/